

建交労 全国トラック部会

全国トラック部会ニュース

2025年度

NO.1

(通算 NO.65)

2024.12.2

全国トラック部会第25回総会

42人の参加で、2025年度方針・役員体制等を確認。



全国トラック部会は11月24日、静岡県伊豆長岡「ホテルサンバレー富士見」で第26回総会を総勢42人で開催しました。第26回総会は、建交労中央春闘討論集会終了後に開催され、2025年春闘を奮闘すべく全国の仲間が結集しました。

冒頭に足立中央執行委員長（部会長）の挨拶として、「4月から改善基準告示が適用され、職場で実践されている。また、物流2法も改正されるなど日本の物流が大きく変わろうとしている。全国トラック部会はトラック運輸産業の前進に向けた貢献ができたと考える。ひとえに職場・地域で奮闘する組合員の皆さんの活動によって業界団体などとの関係も環境も変わった。規制緩和の反対を建交労として訴え続けてきたことがこの数年間で証明されてきた。あわせて、経済闘争における建交労の中心部隊がトラックであること。今後一年間どのような運動をおこなうのか、本日の総会での議論し確認したいと思う。トラック部会が先頭に立って奮闘しよう。」と挨拶されました。

議案提案においては、鈴木事務局長から2024年度活動報告とまとめと2025年度方針が提案されました。

討論では、参加者の約半数の20人が討論に参加し、部会方針にもとづくとりくみや組織拡大運動に奮闘していることなどが報告され、活動報告と方針が補強されました。

総会は、2025年度役員体制を含むすべての議案と「総会宣言」を採択した後、新旧役員あいさつ、足立部会長の団結がんばろうで閉会しました。



足立中央執行委員長のあいさつ

総 会 宣 言

全国トラック部会第二十六回総会は、トラック業界で大きな変動が始まった中で開催された。この間、我々は、魅力あるトラック職場の確立をめざし、制度改革と要求闘争を進めてきた。

ついに二〇二四年問題は、現実のものとなった。人手不足の深刻化と相まってトラック物流業界は、大きな変化をもたらし始めた。残業規制だけではなく、賃金構造の改善、荷主との協力による荷積み荷卸し作業の変化、共同配送や中継運行などとともに、トラック業者への過度のサービスに対する行政指導の強化は、我々が長年に渡って要求してきた内容なのである。

今春闘では、例年になく大幅賃上げ回答が続出した。さらに、手当を基本給に組み入れたり、賃金体系そのものを改善企業も現れた。残業規制によって低下する賃金構造を変えなければ、運転手の確保もままならない。経営者も必死の覚悟を決めてきた。それを下支えするため、国は、標準的運賃、の約8%の引上げを行った。荷主は、待ち時間や荷役時間の短縮のため、パレット輸送の拡大や荷役作業の短縮を図ってきた。国もトラックGメンをフル活動させ、荷主への要請・指導に走り回った。今、物流の危機が叫ばれる中、多くのところで物流を守るために動いている。

しかし、トラックドライバーをはじめとする物流マンは、減少するばかりだ。原因は・・・他産業と比べ、まだまだ過酷な状態が続いているからだ。賃金を見てもまだまだ格差は大きい。労働時間も長い。魅力あるトラック業界への変貌は始まったばかりだ。国内経済を支える動脈＝物流を支える人たちの魅力は、緒についたばかりであり、それを実現させるのは、現場で働く我々ではないだろうか！一緒に働こう、と回りに言える職場に変えていくため、我々は努力を積み重ねなければならない。

世界に蔓延するファースト主義は、ロシア、イスラエルだけでなくアメリカでも広がった。このことが、世界の戦火を広げることが無いようにすることは、燃料を他国に頼る日本としては重要な課題だ。ノーベル平和賞は、ヒバクシャに与えられた。戦火を一日でも早く辞めさせなければならない。我々は、組合結成以来、戦時物資を運ぶことを拒否してきた。モノ運びの原点は“幸せ運び”に他ならないからだ。

円安、燃料・諸物価高騰など多くの難題が山積している。国内政治も大きく変化した。これからは今年以上に、トラック事業の経営体質改善、労働者の賃金引上げの流れを作り出さなければならない。トラック業界の社会的地位向上こそが、物流崩壊を食い止め、働き手を若返えさせる起爆剤なのだ。

モノ運びは、幸せ運びである。要求に確信を持ち運動を展開し、労働者の状態改善を進め、三万人建交労トラック部会を実現しようではないか！

右、宣言する。

二〇二四年十一月二十四日

全日本建設交運一般労働組合 全国トラック部会 第二十六回総会